

# 公立大学法人九州歯科大学

## I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人九州歯科大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

九州歯科大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを使命としている。

令和5年度で6年間の第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）が終了したことに伴い、当該中期目標期間における中期目標の達成状況の調査・分析を行い、これらの結果を考慮して当該中期目標の期間における業務の実績の全体について総合的な評定をして、認証評価機関による評価結果も踏まえ、評価を行った。

評価の結果、中期目標項目6項目中1項目（教育）について「達成状況が非常に優れている」、5項目（研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「達成状況が良好である」と評定した。

九州歯科大学は、医科歯科連携や多職種連携を見据えた特色ある学生教育を行うとともに、地域歯科医療従事者に対するリカレント教育に加え、地域の中核病院等での医科歯科連携による地域包括ケアシステム構築や成人歯周病予防の取組を幅広く展開するなど地域貢献にも注力した。第3期中期目標期間中は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたが、遠隔授業も柔軟に組み合わせて学生の学修機会を確保するとともに、感染拡大防止対策を行ったうえで大学の特色である医科歯科連携実習も継続するなど、教育研究の維持向上に取り組んだ。

特に、理事長の強いリーダーシップにより、卒業目標の達成に向けて学修成果を明示する「アウトカム基盤型教育」の実現に向けた教育改革を推進している点はきわめて優れており、ルーブリックを活用した学修評価を実質化させることで、一層の成果を上げることが大いに期待される。加えて、先進的シミュレーター導入による臨床教育の充実などの成果をあげた点もきわめて優れている。

また、令和4年度に受審した認証評価においては、「九州歯科大学の教育研究等の総合的な状況は、大学改革支援・学位授与機構が定める大学評価基準に適合している」と評価されている。

以上のことを踏まえ、公立大学法人九州歯科大学の中期目標期間の業務実績評価については、全体としては達成状況が良好であると認められる。

歯科口腔保健の現場において、高齢社会を迎え、健康寿命の延伸が大きな課題となる中、生活の質の向上や全身疾患の予防に繋がる「歯と口の健康づくり」のニーズが高まっている。地域の医療従事者等との緊密な連携の下、学童期から成人期、高齢者に至るまでのライフステージに応じた口腔ケア、歯周病の予防や治療、包括的な歯科保健医療体制の構築など、地域ニーズへの適切な対応が求められる。

18歳人口が減少する中、公立大学は一層の責任感を持って地域社会の発展に貢献できる人材の育成に取り組む必要がある。令和6年度からの第4期中期目標期間においては、公立大学法人九州歯科大学が、新理事長のリーダーシップの下、内部質保証体制を機能させながら、これまでの特色ある取組の実績を基盤に、その教育、研究、地域貢献活動の更なる進化、発展を実現し、高度な歯科医療人材を育成することで、社会から高く評価される大学となることを期待する。

## II 項目別評価（中期目標項目別評価）

### 1 教育

評価	5：中期目標の達成状況が非常に優れている。
----	-----------------------

教育については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施するとともに、特に優れた実績を上げている実施事項や充実した教育を推進するための積極的な取組が認められることから、達成状況が非常に優れていると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 地域の歯科保健医療に貢献する実践的な歯科医師及び歯科衛生士の育成（アウトカム基盤型教育の推進）
  - ・初年次教育を充実させるため、シラバスの改訂を行うとともに、試験結果に基づき個別の学習支援を実施した。
  - ・実践的な歯科医療人を育成するため、モデル・コア・カリキュラムの改訂を踏まえ、診療参加型の臨床実習を展開するとともに、総合病院と連携し、医科歯科連携実習を多く実施した。
  - ・スチューデント・デンティスト認定制度の実施体制を整備し、臨床実習前の適正な評価を図るとともに、臨床技能の向上のため、他に先駆けて導入したデジタル

歯科用シミュレーターによる実習を充実させ、歯科教育におけるDXの活用を実践した。

- ・学生の学力向上のため、コロナ禍においても評価基準を明確にするなどして遠隔授業を行うとともに、感染症対策を講じた臨床実習を適切に行った。
- ・学生の成績を分析したうえで学修支援を行い、歯科医師国家試験新卒合格率（対出願者数）が高水準であったほか、歯科衛生士国家試験合格率も高水準を維持した。

## (2) 特色ある大学院教育による優れた歯科医療人の育成

- ・評価の観点と基準を示したうえで、学生の学びの達成度を適切に評価するため、ルーブリック評価法を導入するとともに、学生の研究活動の質的向上に繋げるため、学位の申請要件など学位授与基準を見直し、大学院の教育システムを改善した。

## (3) 教職員の教育力向上

- ・ファカルティ・ディベロップメント（FD）開催後に複数回のアンケートを実施して研修効果を検証したほか、学生による授業評価での指摘を教員にフィードバックした。
- ・図書館及び食堂にラーニングコモンズを整備し、グループ学習への転換など教育方法を工夫するとともに、個人業績評価で教育業績の低い教員に対して、職位に応じた教育力向上プランを提示した。

## (4) 意欲のある優秀な人材の確保

- ・模擬講義等の高大連携や高校訪問、WEBオープンキャンパスやオンライン進学相談会を行うとともに、学生アンバサダー組織を創設し、広報誌 Platys を活用した広報活動を充実させた。

## (5) 学生の学修及び生活支援

- ・教職員と保健師、学生相談室のカウンセラーが連携し、学生からの健康面、精神面、学習面の相談等に対応するとともに、新入生の助言班活動や初年次ガイダンスを通じて、学生の問題や悩みを早期に把握し、学生生活を円滑に送れるよう支援するなど、きめ細かな対応を行った。

## (6) キャリア支援

- ・就職支援を充実させるため、キャリア支援クラウドサービスを利用した就職情報の一元化やオンライン面接ブースの設置などを行った。また、多様なキャリアパスに結びつくインターンシップ等の活動を支援するため、キャリアデザインに関する科目を開講した。

## 2 研究

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

研究については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、

達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・地域の中核病院等との連携を強化し、地域包括ケアシステムにおける医科歯科連携や多職種連携を目指した歯科保健医療体制の構築に資する研究を展開した。
- ・特色ある研究を推進するため、積極的に外部研究資金の獲得に努めた。
- ・成人歯周病検診を幅広く展開するため、企業等との連携により大規模な歯周病リスク検査を実施するなど、歯周病予防と全身疾患の関連に係る研究を行った。

### 3 地域貢献及び国際交流

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

地域貢献及び国際交流については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・平成30年度に「口腔保健・健康長寿推進センター」を設置し、歯科医師、歯科衛生士を対象とした摂食嚥下障がい等に関する実践的教育を行うとともに、高齢者の摂食支援や医療的ケア児支援に関するセミナーを開催したほか、開業医からの相談にオンラインで対応した。
- ・北九州地域の地域包括ケアシステム構築に資するため、医科歯科連携を充実させるとともに、成人歯周病予防の取組を幅広く展開するため、地域の経済団体等と連携し、事業所検診に併せた歯周病検査事業や、歯周病検査キットを用いた郵送検診事業を実施した。
- ・海外大学との交流を推進するため、学術交流協定に基づき、短期留学生の受入れや海外短期派遣プログラムなどに取り組むとともに、コロナ禍においてもオンライン国際交流プログラムを実施した。

### 4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

業務運営の改善及び効率化については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・学長裁量経費を確保するなど戦略的な大学運営に取り組んだほか、教職員の能力開発を推進するため、研修をオンデマンド方式で実施した。また、教職員の健康管理体制を整備する一環として健康管理センターを設置し、担当保健師を配置した。
- ・附属病院の組織体制を整備し、包括歯科診療の拡充や多職種連携を推進するとともに、臨床教育活動を充実させるため、電子カルテシステムと連携した治療計画

作成支援システムを構築し、実症例を用いた治療計画の立案をデジタルアーカイブシステムに組み込み運用できるようにした。

## 5 財務内容の改善

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

財務内容の改善については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげた。
- ・電子カルテシステムから得られるデータ解析を活用した病院経営管理のほか、学内施設や資産を効率的に運用した。

## 6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、中期目標期間において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・教職員、学生及び卒業生に対するアンケート結果や外部評価を、教育の改善や大学の方針決定に効果的に反映するため、内部質保証委員会を中心とした内部質保証体制を構築した。
- ・大学ホームページや広報誌の充実を図り、教育研究情報を適切に公開した。